

112.それであなたと、またあなたと共に悔悟した者が命じられたように、（正しい道を）堅く守れ。法を越えてはならない。かれはあなたがたの行いを御存知であられる。

113.あなたがたは悪を行う者を頼りにしてはならない。さもないと業火があなたを捕えるであろう。あなたがたには、アッラーの外に守護者はなく、助けられることもない。

114.礼拝は昼間の両端において、また夜の初めの時に、務めを守れ。本当に善行は、悪行を消滅させる。これは（主を）念じる者に対する訓戒である。

115.耐え忍べ。本当にアッラーは、善行者への報奨を虚しくされない。

116.あなたがたより以前の世代の者の間には、何故かれらの中われが救った少数の者を除いては、地上の退廃を押える有徳な者たちがいなかったのであろうか。不義を行う者たちは、享樂を貪り罪を犯していた。

117.あなたがたの主は、そこの居住民が矯正（に留意）する間は、（単なる）悪行のために都市を滅ぼされない。

118.またあなたの主の御心ならば、かれは人びとを一つのウンマになされたであろう。だがかれらは反目しあっている。

119.あなたの主が慈悲を垂れられる者は別である。かれはそうなるように、かれらを創られた。そして、「われは必ずジンと人間を一緒にして、地獄を満たす。」との主の御言葉は全うされた。

120.凡そわれが、使徒たちの消息に就いてあなたに語ったことは凡て、あなたの心をそれで堅固にするためのものである。その中には真理と勧告、と信仰する者への訓戒がある。

121.それで不信仰者に言ってやろがいい。「あなたがたは自分のやり方で行うがいい。わたしたちも（自分の務めを）行う。

122.あなたがたは待ちなさい。わたしたちも待っている。」

123.天と地の幽玄界は、アッラーの有であり、また凡ての事（物の決定）はかれに帰属する。だからかれに仕え、かれを信頼しなさい。主はあなたがたの行うことを、疎かになされない。

SURA 12.ユースフ章

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

1.アリフ・ラーム・ラー。これらは明瞭な啓典の印である。

2.われは、アラビア語のクルアーンを下した。恐らくあなたがたは悟るであろう。

3.われはこのクルアーンをあなたに啓示し、物語の中の最も美しいものを語ろう。あなたもこれまで気付かずになっていたものである。

4. ユースフがその父（ヤアコーブ）にこう言った時を思え。「父よ、わたしは（夢で）11の星と太陽と月を見ました。わたしは、それらが（皆）わたしに、サジダしているのを見ました。」
5. かれは言った。「息子よ、あなたの夢を兄たちに話してはならない。さもないとかれらはあなたに対して策謀を企らむであろう。本当に悪魔は人間には公然の敵である。」
6. このように主は、あなたを御選びになって、出来事の解釈を教えられ、かれが以前に、あなたの祖先のイブラーヒームやイスハークに御恵・を全うされたように、あなたとヤアコーブの子孫にそれを全うしたものである。本当にあなたの主は全知にして英明であられる。」
7. 本当にユースフとその兄弟（の物語の中）には、（真理を）探求する者への種々の印がある。
8. かれら（兄たち）がこう言った時を思え。「ユースフとその弟は、わたしたちよりも父に寵愛されている。だがわたしたちは多勢の仲間である。父は明らかに間違っている。」
9. （1人が言った。）「ユースフを殺すか、それともかれを何処か外の地に追え。そうすれば父の顔（好意）はあなたがたに向けられよう。その後、あなたがたは正しい者になれるというものである。」
10. かれらの1人の者が言った。「ユースフを殺害してはならない、もしあなたがたがどうしてもそうしたいなら、寧ろかれを井戸の底に投げ込めば、恐らく何処かの隊商に拾い上げられることもあろう。」
11. かれらは言った。「父よ、何故あなたはユースフを、わたしたちに御任せにならないのですか、わたしたちは、本当にかれに好意を寄せているではありませんか。」
12. 「明日わたしたちと一緒にかれを（野に）行かせ、遊んで気を晴らせるようにしてやって下さい。わたしたちはかれを必ず守ります。」
13. かれ（ヤアコーブ）は言った。「あなたがたがかれを連れて行くのは、わたしにはどうも心配である。あなたがたがかれに気を付けない間に、狼がかれを食いはしないかと恐れている。」
14. かれらは言った。「わたしたちは多勢の仲間だから、もし狼がかれを食うようなら、その時はわたしたちは本当におしまいです。」
15. こうしてかれらは、かれ（ユースフ）を連れて行った。そしてかれを井戸の底に投げ込むことに決めた時、われはかれ（ユースフ）に啓示した。「あなたは必ずかれらの（する）この事を、かれらに告げ知らせる（日が）あろう。その時かれらは（あなたに）気付くまい。」
16. 日が暮れてかれらは、泣きながら父の許に（帰って）来た。
17. かれらは言った。「父よ、わたしたちは粟いに競争して行き、ユースフをわたしたちの品物のかたわらに残して置いたところ、狼が来て）かれを食いました。わたしたちは真実を報告しても、あなたはわたしたちを信じては下さらないでしょう。」
18. かれらは、かれ（ユースフ）の下着を偽りの血で（汚し）持って来た。かれ（ヤアコーブ）は言った。「いや、いや、あなたがたが自分たちのために（大変なことを安易に考えて）、こん

なことにしたのである。それで（わたしとしては）耐え忍ぶのが美德だ。あなたがたの述べることに就いては、（只）アッラーに御助けを御願ひする。」

19.そのうちに、隊商がやって来て水扱人を遣わし、かれは釣瓶を降ろした。かれは言った。「ああ吉報だ、これは少年だ。」そこでかれらは一つの売物にしようとしてかれを隠した。だがアッラーは、かれらの凡ての行いを熟知される。

20.かれらは僅かの銀迂でただ同然にかれを売り払った。かれらは、かれから多くを貪らなかつた。

21.かれを買ったエジプトの者は、その妻に言った。「優しくかれを待遇しなさい。多分かれはわたしたちを益することになろう。それとも養子に取り立ててもよい。」こうしてわれはユースフをこの国に落ち着かせ、出来事（事象）の意味のとり方をかれに教えることにした。凡そアッラーは御自分の思うところに十分な力を御持ちになられる。だが人びとの多くは知らない。

22.かれが成年に達した頃、われは識見と知識とをかれに授けた。このようにわれは正しい行いをする者に報いる。

23.かれの起居する家の夫人が、かれの心を惑わそうとして、戸を開けて言った。「さあ、あなたおいでなさい。」かれは（祈って）言った。「アッラーよ、わたしを御守り下さい。本当にかれ（あなたの夫）は、主人です。わたしを気持よく住ませてくれます。本当に不義の徒は、成功いたしません。」

24.確かにかの女は、かれに求めたのである。主の明証を見なかったならば、かれもかの女を求めたであろう。このようにしてわれは、かれから罪惡と醜行を遠ざけた。本当にかれは、謙虚で純真な（選ばれた）わがしもべの一人である。

25.その時兩人は戸の方で相競い、かの女は後ろからかれの服を引き裂き、かれら兩人は、戸口でかの女の夫に出会った。かの女は言った。「あなたの家族（妻）に悪事を行おうとした者には、投獄か痛ましい懲罰の外にどんな応報がありましょう。」

26.かれは言った。「奥様こそ、わたしの意に反して、わたしを御求めになりました。」その時かの女の家族の中の一人が証言した。「もしかれの服が前から裂けていれば、奥様が真実で、かれは嘘つきです。

27.だがかれの服が、もし後ろから裂けていれば、奥さまが嘘を御付きになったので、かれは真実であります。」

28.主人は、ユースフの服が後ろから裂かれているのを見て、言った。「これはあなたがた（婦人）の悪企・だ。本当にあなたがたの悪企・は、激しいものである。

29.ユースフよ、これを気にしないでくれ。それから（妻よ）、あなたの罪の赦しを願ひなさい。本当にあなたは罪深い者である。」

- 30.町の婦人たちは（評判して）言った。「貴人の奥様が、青年の意に反し、誘惑したそうよ。きっと恋に狂ったのでしょう。わたしたちは、明らかに奥様の誤りだと思います。」
- 31.かの女は婦人たちの悪意のある（陰口）を聞くと、使いを遣わし、かの女たちのために宴席を蝕け、一人一人にナイフを渡し、それから（ユースフに）、「かの女たちの前に出て行きなさい。」と言った。かの女たちがかれ（ユースフ）を見ると驚歎し、（興奮して）その手を傷つけて言った。「アッラーの（造化の）完全無欠なことよ、これは人間ではない。これは貴い天使でなくて何でしょう。」
- 32.かの女は言った。「この人よ、あなたがたがわたしを誇るの。確かにわたしが引っ張ってかれに求めたの。でもかれは貞節を守ったのよ。でも（今度）もしかれがあたしの命令を守らないなら、きっと投獄されて、汚名を被るでしょう。」
- 33.かれ（ユースフ）は言った。「主よ、わたしはかの女たちが誘惑するものよりも、牢獄が向いています。あなたがもしかの女たちの悪企・を、わたしから取り除いて下さらなければ、わたしは（若年の弱さで）かの女たちに傾いて、無道な者になるでしょう。」
- 34.それで主はかれ（の祈り）を受け入れ、かの女たちの悪企・をかれから取り払われた。本当にかれは全聴にして全知であられる。
- 35.そこでかの女たちは（かれが潔白であるj証拠を見ていながら、しばらくかれを投獄しよう（それがかの女たちのために良い）と思った。
- 36.その時2人の若者が、かれと共に下獄した。その1人が言った。「わたしは酒を絞るのを（夢に）見ました。」また外の者は言った。「わたしは（夢に）自分の頭の上にパンを乗せて運んでいると、鳥がそれを啄むのを見ました。わたしたちにその意味を解いて下さい。御見かけしたところ、あなたは善い行いをされる方です。」
- 37.かれ（ユースフ）は答えて言った。「あなたがた2人に支給される食事が来る前に、わたしは必ずその解釈を告げよう。それはわたしの主が教えて下さるのである。わたしはアッラーを信じず、また来世を認めない不信心者たちの信条を捨てたのである。
- 38.そしてわたしは祖先、イブラーヒーム、イスハークまたヤアコーブの信条に従う。わたしたちは、アッラーにどんな同位者も決して配すべきではない。これはわたしたち、また凡ての人びとに与えられたアッラーの恩恵である。だが人びとの多くはこれに感謝しない。
- 39.2人の獄の友よ（わたしはあなたがたに尋ねる）。雑多の神々がよいのか、それとも唯一にして全能であられるアッラーなのか。
- 40.かれに仕えないならば、あなたがたとその祖先が命名した、（只の）名称に仕えるに過ぎない。アッラーはそれに対し権能を与えてはいない。大権はアッラーにだけ属し、あなたがたはかれ以外の何ものにも仕えてはならないと（アッラーは）命じている。これこそ正しい教えである。だが人びとの多くは知らない。

41.2人の獄の友よ、あなたがたの中1人に就いていえば、主人のために酒を注ぐであろう。また外の1人に就いては、十字架にかけられて、鳥がその頭から啄むであろう。あなたがた2人が尋ねたことは、こう判断される。」

42.そして2人中、釈放されると思われる者に言った。「あなたの主人にわたしのことを告げなさい。」だが悪魔は、かれがかれ（ユースフ）のことをその主人に告げるのを忘れさせた。それでかれは、なお数年間獄中に留まった。

43.（エジプトの）王が言った。「わたしは7頭の肥えた牛が、7頭の療た牛に食われているのを（夢に）見ました。また穀物の7穂が緑で、他（の7穂）が枯れているを見ました。首長たちよ、あなたがたが夢を解け得るならば、このわたしの夢を解釈して下さい。」

44.かれらは（答えて）言った。「複雑な夢です。わたしたちは夢の解釈は不得手です。」

45.ところが2人中の（獄から）釈放された者が、時を経て思い出して言った。「わたしがその解釈をあなたかたに知らせましょう。それで（まず）わたしを行かせて下さい。」

46.（かれは牢獄に来て言った。）「ユースフよ、誠実な人よ、わたしたちに解いて下さい。7頭の肥えた牛を、7頭の療た牛が食べ、また7つの緑の穀物の穂と、外の（7つの）枯れたものと（の夢）を。わたしは人びとの処に帰って、かれらに理解させたい。」

47.かれは言った。「あなたがたは7年の間、例年のように種を播きなさい。だが刈り取ったものは、あなたがたが食べるのに必要な少量を除いて、（残りを）粉のまま貯蔵しなさい。」

48.それから、その後7年（にわたる）厳しい（年）が来て、あなたがたがかれらのため以前に貯蔵したものを食べ、貯えるものの少量（を残す）に過ぎないであろう。

49.それからその後に来る1年には、人びとに豊かな雨があり、たっぷり（果汁を）萎るであろう。」

50.王は（命じて）言った。「かれをわたしの所に連れて来なさい。」それで使いがユースフの所に来た時、かれは言った。「あなたは引き返して、あの手を傷つけた婦人たち（の心境）はどうなっているのか、主人に尋ねなさい。わたしの主は、かの女たちの悪企・を知っておられる。」

51.かれ（王）は、（婦人たちに）言った。「あなたがたがユースフを誘惑した時、結局どうであったのか。」かの女たちは、「アッラーは完全無欠であります。かれ（ユースフ）には、何の悪いこともないのを存じています。」と云った。貴人の妻は言った。「今、真実が（皆に）明らかになりました。かれを誘惑したのはわたしです。本当にかれは誠実（高潔）な人物です。」

52.かれ（ユースフ）は言った。「これはかれ（主人）に、かれの不巧中わたしが決して裏切らないことを知らせ、またアッラーが裏切り者の悪企・を決して御助けになられないことを知らせるためです。」

- 53.またわたし自身、無欠とはいえませんが、主が慈悲をかけた以外の（人間の）魂は悪に傾きやすいのです。本当にわたしの主は寛容にして慈悲深くられます」
- 54.（これらの報告を聞いて）王は言った。「かれをわたしの許に連れて参れ。わたしは側近としてかれを引き立てよう。」そこでかれ（王）は、かれ（ユースフ）と話を交した後、言った。「今日あなたは、確かにわたしの側近である。高位につけられ、信頼されているのである。」
- 55.かれ（ユースフ）は言った。「わたしをこの国の財庫（の管理者）に任命して下さい。わたしは本当に知識ある管財者です。」
- 56.こうしてわれは、この国においてユースフに権力を授けた。それでかれは、意のままにエジプトの国中を何時でも何処にでも住むことが出来た。われは欲する者に慈悲を施す。また善行をなす者への報奨を虚しくしない。
- 57.信仰して、絶えず主を畏れる者には、来世における報奨こそ最も優れたものである。
- 58.その中ユースフの兄たちが来て、かれの前に罷り出た。かれ（ユースフ）はかれらを認めたが、かれら（兄たち）の方はかれに気付かなかった。
- 59.かれは食料をかれらに与えてから言った。「あなたがたと同じ父親の、兄弟を1人わたしのものと連れて来なさい。あなたがたは、わたしが十分に計量したのを見なかったのか。それはわたしの最上の持て成しではないか。
- 60.もしあなたがたがかれを連れて来ないなら、あなたがたはわたしの所で（穀物を）計ってもらえず、わたしに近付くことも出来ない。」
- 61.かれらは言った。「かれ（弟）に就いて父を納得させ、必ずそれを実行いたしましょう。」
- 62.それからかれ（ユースフ）は、その部下に（命じて）言った。「かれらの（穀物と交換して払った）代価をかれらの袋に入れて置け。かれらは家に帰りそれを見て、恐らく戻って来るであろう。」
- 63.かれらは父のところに帰って言った。「父よ、わたしたちは（穀物を）計ることを拒否されました。弟をわたしたちと一緒に行かせて下さい。そうすれば計って貰えます。わたしたちは（どんな危険があっても）必ずかれを守ります。」
- 64.かれ（ヤアコーブ）は言った。「わたしは以前にかれの兄（ユースフ）に就いてあなたがたを信用した以上に、かれに就いてあなたがたを信用出来ようか。だがアッラーは最も能く（かれを）守られる。かれこそは、慈悲深い御方の中でも最大の慈悲深い御方であられる。」
- 65.かれらが荷物を開くと、代価がかれらに返されているのを見付けた。かれらは言った。「父よ、わたしたちは（この上）何を望みましょう。この代価がわたしたちに戻されています。家族に（もっと）蓄えが貰えます。弟を守り、ラクダ1頭分の増配を得（て帰）るでしょう。そのくらは、難なく手に入るでしょう。」

66.かれは言った。「あなたがたが、避け難い障害に取り囲まれた場合の外必ずかれを連れて戻ると、アッラーにかけて約束しない限り、わたしはかれをあなたがたと一緒に決してやらないであろう。」こうしてかれらがかれに厳肅に誓った時、かれは言った。「アッラーは、わたしたちの言ったことの監視者であられる。」

67.更にかれは言った。「息子たちよ、（町に入る時は皆が）1つの門から入ってはならない。あなたがたは別々の門から入りなさい。だが（この用心は）、アッラーに対しては、あなたがたに何も役立たないであろう。裁定は、只アッラーに属する。かれにわたしは信頼した。凡ての頼る者は、かれにこそ頼るべきである。」

68.かれらは父の命じたやり方で入った。それは、アッラー（の計画）に対し、何の役にも立たなかった。只ヤアコーブ自身に必要な気休めに過ぎなかった。かれはわれが教えたので、知識を持っていた。だが人びとの多くは知らない。

69.さてかれらがユースフの許に行った時、かれはその弟を規しく迎えて言った。「わたしはあなたの兄です。今までかれら（兄たち）がしてきたことに、心を悩ましてはならない。」

70.かれ（ユースフ）が、かれらに配給をし終った時、かれは弟の袋の中に盃を入れた。やがて、ある者が呼びかけた。「隊商よ、あなたがたは確かに泥棒です。」

71.かれらは振り向いて言った。「あなたがたの何がなくなりましたか。」

72.かれらは言った。「わたしたちは、王様の盃をなくしたのです。それを持って・ス者にはラクダの一头分の荷（を与える）でしょう。わたしがその保証人です。」

73.かれらは言った。「アッラーにかけて誓います。わたしたちはこの国で、悪事を働く為に来たのではないことを、あなたがたは既に御存じです。わたしたちは、盗・は致しません。」

74.かれらは言った。「あなたがたが嘘つきであつたら、その（盗・の）処罰は何としようか。」

75.かれら（兄たちは答えて）言った。「その処罰は、誰でも袋の中から（盃が）発見された者であります。かれが、その償いです。このように、わたしたちは悪を行う者を罰します。」

76.それでかれ（ユースフ）は、弟の袋（の検査）をする前に、かれらの袋を（調べ）始めた。そして（最後に）弟の袋から、それを捜し出した。われはこのように、ユースフに策略を授けた。アッラーが望まれる以外には、かれは弟を（エジプト国）王の法律の下で抑留することが出来なかったのである。われは欲する者の（英知の）階位を高める。だが全知者（アッラー）はいる。

77.かれらは言った。「もしかれが盗んだとすれば、かれの兄も以前確かに盗・をしました。」しかしユースフはこれらのことを自分の心に秘めて、かれらにそれ（秘密）を漏さなかった。かれは（独り言のように）言った。「事情はあなたがたに不利である。アッラーはあなたがたの語る真実を最も能く知っておられる。」

78.かれらは言った。「申し上げますが、かれには大変年老いた父親があります。それでかれの代りに、わたしたちの1人を拘留して下さい。御見うけしたところ、あなたは本当に善い行いをなさる方でございます。」

79.かれは言った。「アッラーは、わたしたちの物を、その許で見付けた者以外は、（誰も）捕えることを禁じられる。（もしそうしないと）本当にわたしたちは、不義を行うことになるであろう。」

80.そこでかれらは、かれ（の引き取り）に望・がないことを知り、密に協議した。かれらの中の最年長の者が言った。「あなたがたは、父がアッラー（の御名）によって誓いをたて、また以前ユースフのことに就いても、どのような誤りを犯したかを考えないのか。それで父がわたしを許すか、またアッラーがわたしたちを御裁き下さるまで、わたしは決してこの地を離れないであろう。かれは最も優れた裁決者であられる。」

81.あなたがたは父のもとに帰って言いなさい。『父よ、あなたの子は、本当に盗・をしました。わたしたちは、唯知っていることの外は証明出来ません。また目に見ていないことに対しては、どうしようもなかったのです。』

82.それで（あなたは）、わたしたちがいた町で尋ねるか、またはそこを往来した隊商に問いなさい。わたしたちは真実を言っている（ことが分ります）』。」

83.かれ（ヤアコーブ）は言った。「いや嘘である。あなたがた自身のため事件を工夫して作ったに過ぎない。だが耐え忍ぶこそ（わたしには）美德である。或はアッラーが、かれらを皆わたしに御送りになるかもしれない。かれは本当に全知にして英明であられる。」

84.かれはかれらから離れて言った。「ああ、わたしはユースフのことを思うと、悲しくてならない。」かれ（父）の両目は悲嘆の余り自くなり、物思いに沈んだ。

85.かれらは言った。「アッラーにかけて申し上げます。あなたはユースフを思うことを止めなければ、重態に陥、或は死んでしまいます。」

86.かれは言った。「わたしは只アッラーに対し、わが悲嘆と苦悩とを訴えている丈である。わたしは、あなたがたが知らないことを、アッラーから教わっている。」

87.息子たちよ、あなたがたは出掛けてユースフとその弟の消息を尋ねなさい。アッラーの情け深い御恵・に決して絶望してはならない。不信心な者の外は、アッラーの情け深い御恵・に絶望しない。」

88.そこでかれらは、（また）かれ（ユースフ）の許にやって来て言った。「申し上げます。災難（機（鐘？））がわたしたちと一族の者に降りかかったので、ほんの粗末な品を持って参りました。（梲？）目を十分にして、わたしたちに施して下さい。本当にアッラーは施しを与える者を報われます。」

89.かれは言った。「あなたがたが無道の余り、ユースフとその弟にどんなことをしたか知っているのか。」

- 90.かれらは驚いて言った。「すると本当にあなたは、ユースフなのですか。」かれは言った。「わたしはユースフです。これはわたしの弟です。アッラーは確かにわたしたちに恵・深くあられる。本当に主を畏れ、堅忍であるならば、アッラーは決して善行の徒への報奨を、虚しくなされない。」
- 91.かれらは言った。「アッラーにかけて。本当にアッラーはわたしたちの上に、あなたを御引き立てなされた。わたしたちは本当に罪深い者です。」
- 92.かれは言った。「今日あなたがたを、（取り立てて）咎めることはありません。アッラーはあなたがたを御赦しになるでしょう。かれは慈悲深き御方の中でも最も優れた慈悲深き御方であられます。」
- 93.あなたがたはわたしのこの下着を持って（帰り）、わたしの父の顔に投げかけなさい。かれは眼が見えるようになろう。それからあなたがたは、家族揃ってわたしの処に来なさい。」
- 94.隊商が（エジプトを）たつた時、かれらの父は（左右の者に）言った。「わたしは確かにユースフの匂を嗅いだ。だがあなたがたは、老衰のせいだと思うであろう」
- 95.かれらは言った。「アッラーにかけて、全くそれはあなたの（いつもの）老いの迷いです。」
- 96.それから吉報を伝える者が（帰って）来て、（下着を）かれの顔に投げかけると、直かれは視力を回復した。かれは言った。「わたしはあなたがたに言わなかったか。あなたがたが知らないことを、わたしはアッラーから（の啓示で）知っている。」
- 97.かれらは言った。「父よ、わたしたちのために、罪の御放しを祈って下さい。わたしたちは本当に罪深い者でした。」
- 98.かれは言った。「それではわたしはあなたがたのため、わが主に御放しを願ってやろう。本当にかれは、寛容で慈悲深くあられる。」
- 99.やがてかれらがユースフの許に来た時、かれは両親を親しく迎えて言った。「もしアッラーが御望・なら、安らかにエジプトに御入りなさい。」
- 100.かれは両親を高座に上らせた。すると一同はかれにひれ伏した。するとかれは言った。「わたしの父よ、これが往年のわたしの夢の解釈です。わが主は、それを真実になさいました。本当にかれは、わたしに恩寵を与え、年獄からわたしを御出しになり、また悪魔が、わたしと兄弟との間に微妙な敵意をかきたてた後、砂漠からあなたがたを連れて来られたのであります。わが主は、御望・の者には情け深くあられます。本当にかれは全知にして英明であられます。」
- 101.主よ、あなたはわたしに権能を授けられ、また出来事の解釈を御教えになりました。天と地の創造の主よ、あなたは現世と来世でのわたしの守護者です。あなたは、わたしをムスリムとして死なせ、正義の徒の中に加えて下さい。」

102.これはわれがあなた（ムハンマド）に啓示した、幽玄界の消息の一つである。かれらが（ユースフに対する）計画を策謀した時、あなたはかれらと（その場に）いなかった。

103.仮令あなたが如何に望んでも、人びとの多くは信じないであろう。

104.あなたはそれ（使命）に対し、どんな報酬もかれらに求めない。これは、全人類への訓戒に外ならない。

105.天と地の間には、（アッラーの唯一性や神慮に関し）如何にも多くの印がある。かれらはその側を過ぎるのだが、それらから（顔を）背ける。

106.かれらの多くは、アッラーを多神の1つとしてしか信仰しない。

107.かれらに下るアッラーの懲罰が覆いかかることに対し、またかれらが気付かない間に突然来る時に対し、かれらは安心出来るのか。

108.言ってやるがいい。「これこそわたしの道。わたしも、わたしに従う者たちも明瞭な証拠の上に立って、アッラーに呼びかける。アッラーに讃えあれ。わたしたちは多神を信じる者ではない。」

109.われはあなた以前にも、町に住む者の中から（特に選んで）、われが啓示を受けた人間以外は、（預言者として）遣わさなかった。かれら（マッカの人びと）は、地上を旅して、以前の者たちの最後が、どんな（悲惨な）ものであったかを観察しているではないか。本当に主を畏れる者に対する、来世の住まいこそ最上である。あなたがたは悟らないのか。

110.（ムハンマド以前の）使徒たちが（遣わされた民のもとで）一切の希望を失った時、そしてかれら（使徒たち）が（不信仰者に対するアッラーからの勝利の約束の）期待が持てなくなったと思ひ込んだ時、われの助けがかれら（使徒）に下り、われの欲する者に救いは来るのである。只罪を犯した者は、わが懲罰は免れられない。

111.本当にかれらの物語の中には、思慮ある人びとへの教訓がある。これは作られた事柄ではなく、以前にあったもの（啓典）の確証であり、凡ゆる事象の詳細な解明であり、また信仰する者への導き、慈悲ともなる。

SURA 13.雷電章 [アッ・ラアド]

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

1.アリフ・ラーム・ミーム・ラー。これは啓典の印である。そしてそれは主から、あなたに啓示された真理である。だが人びとの多くは信じない。

2.アッラーこそは、あなたがたには見える柱もなく、諸天を掲げられた方である。それからかれは、（大権の）御座に鎮座なされ、太陽や月を従わせられる。（だから）各々の定められた時期まで運行する。かれが凡ての事物を規制統御し、種々の印を詳しく述べられる。必ずあなたがたに主との会見に就いて確信させるためである。